

広げよう 地域につながる 子育ての和・輪!

中原中学校の施設開放を利用して子育てサロンを開催しています。学校特有の懐かしさと文化の香りが漂う教室は、毎回母親の輝く笑顔と我が子への愛情オーラで溢れています。子育てサロン開始当初(平成15年9月)から、春夏秋冬いつでも温かく見守ってくださるボランティアと親子の間に生まれた新しい出会いの種が、今では街のあちこちで芽吹き、花開き、交友関係が深まりました。子の成長を褒めたり、育児のコツを伝授したり、町会行事に誘ったり、子育てサロンをきっかけに、地域の中に子育ての輪がたくさん実りました。

杉野茂彦委員長のあいさつ

世代間交流をしたいとの一念で子育てサロンを開設しました。そして早や10周年を迎えます。その間、開設、運営には行政・町会・社協・民児協・地域ボランティアのご協力をいただき心から感謝申し上げます。「子育てサロン」と早朝小学校前での「あいさつ運動」は、ともすると暗いニュースの多い中、地域に新風が流れ始めました。この流れをエンドレスな運動として定着させなければならないと考えます。これからは子どもを中心に、地域の絆、地域コミュニティとして高齢者まで繋げていきたいと思えます。今後ともご協力をお願い申し上げます。

10年皆勤 警備&案内係 原 庚三さんより

初めて会場を訪れる時の不安げな表情とは一変して、見違えるほど満面の笑顔で帰りのあいさつを交わしてくれます。「今日のランチ何処に行く?」「次〇〇で待ち合わせね」ママ友の話に花が咲きます。賑やかに帰路につく親子のうしろ姿に心が和みます。

継続こそ力なり♥ 中学生ふれあい交流

平成18年度から中原中学校の生徒、地域の親子、子育て支援ボランティア三者のふれあい交流が実施されて7年目を迎えました。乳幼児を抱っこして、一緒に遊び、お母さんに話を聞いて、命の大切さや育児の大変さ、家族の愛情を知る機会として毎年好評です。生徒の純真な笑顔は最高の癒しです。



—小学生ふれあい交流—



こすぎ卒業生の声

☺参加してよかったことは、初めての育児でわからないことがたくさんあったので、様々な分野のお話しが聞けたり、他のお母さま方と悩みを話したりして、得たことが多かった事です。

☺サロンでは、季節ごとに保健師さんや保育士さんの話が聞けて、参考になりました。乳幼児期は公園にはまだ早く、外出する機会を見つけにくいですが、サロンを目標に子どもの体調に気をつけたりしていました。これからも親子で集える場が続いていくと嬉しいです。

中原保育園 辻村園長からメッセージ

保育士が子育てサロンに出向き、パネルシアターや手遊び、ふれあい遊びをしています。スタッフの方が一緒に歌って盛り上げてくれるので、お母さん達も楽しそうに参加しています。また、サロンの中でたくさんのボランティアさんに見守られ、お母さん同士が交流したり、心配ごとを話したりしており、子育ての孤立化をかなり解消していると感じました。

自分は望まれて育ってきた♥ 小学生ふれあい交流

平成23年10月、西丸子小学校6年生と地域の親子とのふれあい交流がおこなわれました。丸子地区子育て支援推進委員会と共催事業で、小学生の健全育成をめざし、命の大切さや自分は望まれて育ってきたという自己肯定感を高めてもらうための体験学習への協力です。



自然の恵みと 世代交流で 子育て力アップ!

子育てサロンこすぎの延長として1.5才から3才の親子を対象に子育てサロンとどろきを開催しています。2才児イヤイヤ期、3才児反抗期の幼児を相手に、スタッフはいつも体力知力勝負です。滑り台の順番待ちやオモチャの貸し借り「ごめんなさい、ありがとう」など、集団遊びのルールやあいさつをお母さんと一緒に教えています。発達の個人差、生活習慣、食物の好き嫌い、しつけなど、お母さん方の悩みも様々です。相談者と保育士、保健師がスムーズにつながる関係づくりに努めています。

とどろき卒業生の声

☺上の子が3ヶ月の時に初めて参加し、現在5才と3才になりますが、街でお会いするボランティアの方々に、我が子の想い出話をして頂くと、この上なく嬉しく思います。サロンを通じて知り合ったお友達とは、地域で顔を合わせるたびに親しくなり、未だに仲よくしていただき、最高の宝物になりました。

宮内保育園 飯島園長からメッセージ

等々力周辺は自然が豊富でとても素敵な場所ですね。川崎市の中でも中原区は子どもの数が増え、子育てニーズも高くなっている地域ですので、このような「サロン」の活動はとても大切だと思います。保護者が子育てを楽しめるように力になりたいと思っています。



保育士による手づくりおもちゃ講座

ミニ学習会

各分野の学習会では、お母さん達が講師の話に集中できるように親子分離スタイルをとっています。受講している間、スタッフは子どもの安全に配慮して見守ります。



↑ 歯科衛生士のお話



ぼうさい出前講座

2011.3.11の東日本大震災を機に、乳幼児を持つ家庭における災害の備えと知識について学習しました。川崎市総務局危機管理室啓発・予防担当に出前講座を依頼して、家具の固定、非常持出品準備、避難所確認、家族との連絡手段等、日頃の備えと心構えの基本を説明していただきました。「子どもを守るは自分しかいない。」「近隣とのコミュニケーションが大切、町内会の避難訓練に参加したい。」震災直後でみな意識も高く、40分間の長い講義でしたが真剣に聞いてくれました。

Q)3.11 地震の時どうしていましたか？

A) 子どもを抱っこして恵比寿で買い物中でした。地下鉄が運休したのでタクシー乗り場へ行ったら長蛇の列。6時間待ったけど案内も情報も全く入りませんでした。列の前後にいた親切なおばさん達がいろいろ情報を入手してくれて、近隣ホテルのロビーが避難所になっているというので一緒に行きました。紙おむつや水、毛布がもらえてやっと安心できました。タクシーの列には赤ちゃん連れや妊婦がたくさんいたので、みなさんどうしたのか気になりました。

子育て応援隊講座

ボランティアの資質の向上を目指し、地区推進委員会より3名が中原区子育て応援隊！一般講座→ステップアップ講座→フォローアップ講座を修了しました。学んだ知識を活かして認可保育園ハイハイ広場や他の子育て支援現場で活躍しています。

チラシも丈夫になりました

子育てサロンの案内チラシを町内会の掲示板に掲示しています。紙のチラシは暴風雨の後、悲惨な状態になってしまい、張り替えが必要でした。そこで、平成23年度からラミネート加工のチラシに変更しました。おかげさまで雨二も負ケズ丈夫なチラシでPRができます。子育て中の方ばかりでなく、ボランティアに興味のある方からも問い合わせがくるようになりました。